



新居浜市一宮町一丁目5番1号 学校教育課
tel (0897) 65-1301

秋も深まってまいりました。E S D活動の一環として、積極的に他の市町の小学校と交流を深めている学校があります。その様子と、第2回E S D推進事業協議会の報告をいたします。

各地の小学校との交流を通して



① 惣開小学校（10月6日）

惣開小学校は平成27年度より徳島県松茂町立長原小学校と交流を続けています。6年生が隔年ごと、相互に学校を訪問し、つながりを深めてきました。今年は惣開小学校が長原小学校を訪れる年でした。防災学習の成果を互いに発表し、意見交換しました。地域の防災リーダーとしての自覚を育むよい機会となりました。海沿いの小学校ならではの、砂浜での造形学習も体験することができました。一緒に給食を食べたり、阿波踊りを踊ったり、また、サプライズで松茂町のゆるキャラ「松茂係長」が登場したりと盛りだくさんの交流メニューを堪能していました。



互いの学習成果の発表



さらさらの砂浜での造形教室



松茂係長にびっくり!!

② 金栄小学校（10月25日）

金栄小学校は平成28年度から岡山市立城東台小学校と交流を行っています。昨年は金栄小学校5年生が城東台小学校を訪問し、今年は逆に城東台小学校6年生がこちらに来てくれました。穏やかな秋晴れの中、はるばる瀬戸内海を渡ってやってきてくれた元気いっぱいの城東台小キッズは、「自分たちが企画した修学旅行」についての学習成果を発表してくれました。金栄小キッズは、平和学習に関するグループ発表を行いました。寸劇を交えるなど、発表方法にも各グループの工夫が見られました。両校の発表の中で「調べ学習を通して、自分の将来のことを考えるようになりました。」という児童の言葉が印象的でした。



ようこそ金栄小へ 歓迎の言葉



オリジナル旅行パンフレットの紹介



平和学習の発表



- 1 日 時 平成29年10月25日(水) 15:00~16:30
- 2 場 所 新居浜市立別子銅山記念図書館 多目的ホール
- 3 参加者 近森憲助(鳴門教育大学院特命教授)、竹下浩子(愛媛大学准教授)、竹内よし子(えひめグローバルネットワーク代表)、木村英理子(学校図書館支援員)、関 福生(教育長) 常川真由美(四国EPO所長)、玉井広志(愛媛県総合科学博物館学芸課長)、早瀬伸樹(新居浜工業高等専門学校教授)、福西哲唯(新居浜ユネスコ協会事務局)、久保朋子(東予信用金庫営業推進部長)、日野優子(小学校長会ESD担当)、山田浩司(中学校長会ESD担当)、坂本睦美(学校教育課)、井上美樹(ESD担当指導主幹)

4 主な協議内容

- 2学期半ばまでの推進事業進捗状況を説明した。教職員対象の研修会においては、業務改善の一環として、研修会の回数を減らしながらも内容の充実を目指した会の運営に心掛けた。その一方で、各学校のニーズに応じた研修会や講演会等を昨年以上に多く開催している。この方向を来年度も継続していきたい。他の市町との学校間交流も増えてきた。今後は、新居浜市の取組を情報発信するため、全国各地のユネスコスクールやコンソーシアムが主催するサミットやフォーラムに積極的に参加し、実践発表を行う予定である。(担当指導主幹)
- ESD推進に向け、これまでの歩みを継続していく方向である。新居浜流のカリキュラムの編成を目指したい。具体的には、防災土育成のために中学生版カリキュラムの構想をもっている。また、市内の版画家石村さんの作品とSDGsをマッチングさせた教材の開発も現在検討中であり、コンソーシアムの協力を仰ぎたい。(教育長)
- 夏季休業中に実施したESD講演会参加者のアンケート結果は次の通りである。

| 質問 | 回答数 (%) | | | 合計 |
|------------------------|-------------|----------------|------------|-----------|
| | ①とても参考になった。 | ②参考になるところがあった。 | ③参考にならなかった | |
| 質問1 (講演会の内容は参考になりましたか) | 316 (76.5) | 97 (23.5) | 0 (0) | 413 (100) |
| 質問2 (事例紹介は参考になりましたか) | 344 (83.1) | 70 (16.9) | 0 (0) | 414 (100) |

この表により、参加した教員の満足度が非常に高かったことが推測できる。自由記述を通して、ESDへの理解の促進、育成すべき児童生徒像の明確化、実践意欲の高まりなどが見られた。今後は、各学校の教師が実践を持ち寄る学び合いの場、学びのプラットフォームが必要ではないか。また、教科への浸透が課題。総合的な学習の時間中心でなく教科の中にどう落とし込んでいくかが、新学習指導要領の理念上でも重要である。大学のESD概論にも環境以外に文化や芸術の視点を加味する動きがあり、新居浜の成果を発信してほしい。(近森特命教授・竹下准教授)

- 西中学校、中萩中学校の学校図書館整備や授業支援を実施した。「3日あれば図書館は変わる」という好事例ができたので、ぜひ両校の図書館を多くの方に見てもらいたい。また、整備した図書館を維持管理するには人的配置が不可欠。この点が大きな課題である。(木村図書館支援員)
- ユネスコ協会では多喜浜塩田の教材化に取り組んでいる。新居浜工業高等専門学校ではESD対応学生主体型出前授業を実施する。愛媛県総合科学博物館からは、東予産業遺産展等の紹介があった。東予信用金庫からは、「エコ活動」「エコ作文」募集の紹介と積極的な参加依頼があった。四国エポからは、四国地方ESD活動支援センターによって、推進ネットワークづくりを進めている状況の紹介と協力依頼があった。(各コンソーシアムからの意見の概要)
- スカイプの活用等により、他校とつながることができている。さらに広げていくための予算確保を望む。国際交流センターがないことも今後の課題。ESD活動を活発にするためのサポートメニューが欲しい。各学校が地域性を生かした取組に力をいれ、□□小・中校モデルの構築が重要で、校長のマネジメント力が問われる。系統的な取組は十分だろうか。教育委員会には各校の状況把握や啓発をお願いしたい。(ESD担当小中学校長)
- ◎ 今回の会議には、アフリカ モザンビークに滞在中の竹内よし子さんにもウェブ会議システムを利用して参加していただき、まさにグローバルな体験の場を協議会員が共有することができた。

